トップニュース

能登町で子ども食堂開く

能登半島地震支援センターが地元の声に応え

龍谷大生も参加し子どもたちと遊ぶ

「能登の子どもたちを元気に」と、宗派の能登半島地震支援センター（金沢市・金沢別院内）は先ごろ、石川県能登町のまつなみキッズセンターで、地元の「こども食堂おむすび」（西中宏美代表）などの協力を受け、初めて子ども食堂を開いた。同支援センターが昨年10月から被災者の心のケアを目的に、仮設住宅や寺院などで開くサロン活動の子どもバージョン。

「こども食堂おむすび」は昨年11月から毎月1回、キッズセンターで開かれており、同支援センターは米や紙皿、紙コップなどを届けてきた。その交流の中で、西中代表らから「能登の子どもたちを元気づけてほしい」と要望を受け、子ども食堂を春休み期間中に開くことに。

活動には、支援センターのスタッフ、石川教区の僧侶や寺族、宗門校・龍谷大学のボランティア・NPO活動センターの学生、教職員など約30人が参加。国府教区から寄贈された米23升（約35キロ）をはじめ、豚肉50キロ、タマネギ50キロなどを持参し、豚丼500食分を準備した（写真下）。

子ども食堂に集った子どもたちは約50人。豚丼のほか、フランクフルトやポップコーン、綿菓子なども振る舞われた。食事を終えた子どもたちは、学生スタッフらと輪投げや野球ゲームなどを楽しんだ（写真上）。また、仏教に親しんでもらおうと、釈尊の誕生を祝う花御堂が設置され、子どもたちは誕生仏に甘茶を注いだ。

「子どもたちの心の傷はまだ」

レクリエーションコーナーで6つのスタンプを集めると「わ・げ・ん・あ・い・ご」（和願愛語）となり、スタッフを務めた能登町・法栄寺衆徒の弘崎嘉正さんが「笑顔と優しい言葉でみんな仲よくしてください」と法語の意味をわかりやすく解説した。

弘崎さんは「子どもたちと話す時に地震のことには触れなかった。あの恐ろしい体験を思い出させたくなかったから。今日1日はみんな笑顔で過ごしてほしかった」と話す。花御堂で子どもたちの世話をした穴水町・真龍寺坊守の幽経華菜子さんは「みんな笑顔でレクリエーションを楽しみ、何度も同じゲームにチャレンジする子もいた。ただ、遊んでいる時はみんな元気だけれども、地震で負った心の傷がまだ癒えていない子どもたちも少なくないと思う。こうした支援が今後も必要だ」と話した。

また、豚丼450食を、キッズセンターに隣接する能登町役場内浦総合支所で、仮設住宅の住民らに配布した。住民らは「ありがとう」と感謝の言葉を述べながら豚丼を受け取っていた。

ＥＸＰＯ2025で僧侶がラジオ体操

４月13日に開幕した「ＥＸＰＯ2025 大阪・関西万博」（大阪市此花区）の会場では連日、特設ステージなどで関連イベントが行われ、にぎわいを見せている。21日には、法衣姿でラジオ体操をする超宗派の僧侶たちが1500人の見学者を沸かした。

僧侶たちが登場したのは、ラジオ体操を通じて健康増進やコミュニティー作りに取り組む一般社団法人ラジーン主催のイベント「ＴＳＵＮＡＧＵ（つなぐ）」。ラジーンのスタッフと交流のある池田唯信さん（39、大阪府門真市・本願寺派浄徳寺住職）が、真宗大谷派、真宗興正派、真言宗の若手僧侶や寺族などを誘い、８人で参加した（写真下）。池田さんは「ラジオ体操は誰でも気軽にできて、気持ちも体もほぐれて和やかになる。自宅近くで毎朝行われているラジオ体操に時々参加しているが、初めての人同士でも一緒に楽しめるのがとてもいい。自坊の催しなどでも取り入れており、子どもにも年輩の方にも評判」とラジオ体操の魅力を語る。

イベントでは、1928年の放送開始から約１世紀にわたり放送され続けるラジオ体操を〝日本の伝統文化〟としてＰＲ。体操はファッションショーや楽器演奏などの合間に３回行われ、その１回に僧侶グループが登場。池田さんたちは、それぞれの宗派の法衣を着け、ゆるキャラと一緒に、ラジオ体操第１のリズムに合わせ、「バ・ン・パ・ク！」とかけ声をかけながら、伸び伸びと体を動かした（写真右）。大型スクリーンには、ブラジルなど国内外の人々から寄せられた体操の動画も映し出され、リモートも含めて延べ約１万7000人が参加したという。

三好顕士さん（38、兵庫県伊丹市・大谷派福勝寺住職）は「国を超えて年代を問わず、誰でもできてお寺でもできる。『ラジオ体操って実はすごい』とあらためて感じた。さまざまな人が集う『万博』という舞台で皆さんと一緒にできてよかった」と話し、池田さんは「ラジオ体操を通じて、いろんな人とご縁を『つなぐ』ことができてよかった」と笑った。

本願寺新報
hongwanji journal

5月20日（火曜日）
毎月1日・10日・20日発行

発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派（西本願寺）
〒600-8501　本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代) ／ FAX075(341)7753

浄土真宗聖典の学習誌
季刊せいてん
150号好評発売中 特集「地域からみる浄土真宗」
年4回発行／B5判 一部700円／年間購読2,800円(税・送料込)
本願寺出版社 お申し込みは、お電話またはFAXで 0120-464-583 075-341-7753

今号の紙面

法話「宗祖降誕会によせて」…6

ひと　2面
龍谷大学長に就任した安藤徹さん

みんなの法話……4
学ぶ親鸞聖人　ご生涯×教え…5
お釈迦さまの前世物語……3
季節の養生と薬膳……3
本願寺インスタ倶楽部……3
読者のひろば（俳壇・歌壇）…7

赤光白光

最近、購読する新聞の人生相談によく目が行くようになった。夫婦や家族間の問題、会社での悩みなど毎回身につまされる話が掲載される。それに対し、作家や大学教授、医師、元アスリートなど異業種の人々が交替し、相談に乗っている。

▼僧侶の私ならどう答えるか、と自問しながら読み進めていくが、回答者それぞれの人生経験から導き出された答えは、うなずかされることも多い。特に好きな回答者は、作家らしい美しく詩的な文章と、「あなた」という二人称と相まって、悩みとともに一緒に立ち止まってくれる時間を提供してくれる。

▼『歎異抄』にも相談の場面がある。第２条では、親鸞聖人が説かれた念仏の教えが関東で間違って解釈され、その不審を明らかにしようと命がけで京都の聖人の元に質問にきた弟子たちとのやりとりが書かれている。聖人は弟子たちに「親鸞においては、ただ念仏して阿弥陀さまにたすけていただくのだとおっしゃられた法然聖人の言われたことを、信ずるほかに別の子細はない」と厳しく言い放たれている。

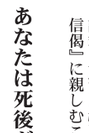
▼また第９条では、念仏申しても躍り上がって喜ぶ心が湧いてこないという弟子・唯円の相談に、「私もそうだ。あなたも同じ心だったんだな。そういう私たちだからこそ、阿弥陀さまは特に心配されておられる」と、自分と同じ悩みを持った弟子と喜び合われている。５月20、21日は本山で、親鸞聖人のご誕生に感謝を示す宗祖降誕会が営まれる。この法要をご縁とし、あらためて聖人に相談しようと思う。

購読料 1部120円(年間4,080円) 定期休刊 7月10日、12月10日
浄土真宗本願寺派 代表電話
宗務所 075(371)5181／大谷本廟 075(531)4171

宗派公式Webサイト　https://www.hongwanji.or.jp
本願寺ホームページ　https://www.hongwanji.kyoto

探究社　https://www.tankyusha.co.jp

新装改訂版
癌告知のあとで
なんでもないことがこんなにうれしい
B6判並製・248頁・540円
鈴木　章子



初版発刊から四十年余り経た令和の時代にあの感動を再び…。
「ガンを生きる四十六歳」と題して始まる本書は、当時四十六歳の真宗大谷派寺院の坊守であった著者のガンとの闘病記でもあり、詩集でもある。ガンと告知され、その衝撃を乗り越えて病気と闘う著者が病床より書き綴った心の軌跡とともに自分自身の病状を冷静に観察し、その思いを詩と短文で客観的に表現した感動深き書。
母から子に、そしてご縁ある方々に最後の贈りものとして手渡したい…との著者の思いが行間にあふれている。

●行事を問わない施本に最適
現代語訳正信偈
中路孝信・松下雅文
上段に『正信偈』をルビ付で記載し、下段に現代語訳を端的に記載。肩ひじ張らず、気軽に『正信偈』に親しむことができる。
132円

あなたは死後どこへ
藤田徹文
誰もが持っている死後に対する漠然とした不安。いつ何時、どのようなことで死を迎えても大丈夫と言えるように平生から確かな「いのち」のよりどころを聞いておいて下さい。275円

知っておきたい浄土真宗
葬儀とお仏壇について
福岡教区福岡組基幹運動推進委員会・編
浄土真宗の葬儀についてイラストを交えて詳しく解説。また、浄土真宗のお仏壇についても カラー写真でわかりやすく説明している。176円

〒520-0027　大津市錦織２丁目９-30-101
TEL 077 (599) 4201　FAX 077 (599) 4220
【e-mail】post@tankyusha.co.jp　【表示価格は税込】

法藏館
https://pub.hozokan.co.jp

真宗の教学と実践
森田眞円先生古稀記念論集刊行会［編］
森田眞円先生古稀記念論集
七、七〇〇円
浄土真宗本願寺派の教学・伝道研究の中枢を担ってきた森田眞円先生の古稀を祝し、有志十数名による論文・エッセイを集めた記念論集。

森岡清美の宗教社会学
――その検証と継承
大谷栄一・寺田喜朗［編］
三、五一〇円
日本宗教社会学の開拓者・森岡清美が遺した知的遺産の数々に、後学はいかに向き合うべきか。宗教社会学の原点を尋ねる意欲的試み。

教行信証の哲学
武内義範［著］石田慶和・岩田文昭［解説］
親鸞の主著『教行信証』を西洋哲学の知識を駆使して初めて哲学的に解読した記念碑的論考。親鸞思想を「哲学」として知らしめた名著。
一、二一〇円

法藏館文庫

近刊
現代語訳　六要鈔
柳瀬彰弘［著］
一、六五〇円
存覚の『六要鈔』は親鸞の主著『教行信証』を体系的に註釈した最初の書物であるが、難解な『六要鈔』に現代語訳を試みた意欲的労作。

法藏館文庫

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入ル　TEL 075-343-0458　FAX 075-371-0458
表示価格は全て税込　新刊メール配信中！　お買上16,500円(税込)以上送料無料

重版出来
勤式作法手引書
堤　楽祐著　定価3850円(税込)
浄土真宗本願寺派の勤式作法を作法・装束・荘厳・おつとめ・読物・法要儀式・葬儀・故実・語句の九つの部門でわかりやすく解説。巻末に語句索引が追加され、さらに実用的になりました。

最新刊
東西本願寺120のちがい
鎌田宗雲著　定価3300円(税込)
主に前半は、東西本願寺の組織・寺紋・荘厳・勤式・作法など一二〇項目のちがいを紹介する。後半は、歴史的な視点も踏まえて東西本願寺のちがいに着目し、主に東騒動に関して時系列で振り返りながら解説する。

値遇のこころ
川添泰信著　定価1100円(税込)
本願寺の新報、または小冊子や、大学における掲示伝道の標語の解説などをまとめた法話集。主な内容として、お辞儀と礼拝／握手と合掌／「僧越」と「ジョーク」／蜘蛛の糸／安穏の未来／浄土真宗のお彼岸／この世にて／など。

永田文昌堂　600-8342　京都市下京区花屋町通西洞院西入
TEL 075-371-6651　FAX 075-351-9031

藪内流の茶道精神
正直　清浄
禮和　質朴
すなほなる　心をうつすわざなれば
手つきまがらず　すなおなるべし
茶道　藪内家燕庵
家　元　京都市下京区西洞院正面下ル　☎(075)343-0215
藪内家燕庵HP http://www.yabunouchi-ennan.or.jp

本願寺出版社
広告募集中
詳細やご相談は、当社広告担当までお気軽にご連絡ください。
TEL 075-371-4171
FAX 075-341-7753